

LIBRA SQUARE

Book

最近、おもしろかった本

『スローグッドバイ』

石田衣良 著 集英社文庫 480円(税込)

「ああ、こんなことがあった…」 自分の過去と切なくシンクロする恋愛短編集

誰しも、振り返るとほろ苦い気持ちが広がる恋愛話を胸の奥に潜ませているのではないか。この本は、そんな自分の過去とシンクロする物語が詰まっている短編集である。

主人公は、全て20代の男女。スリリングな展開があるわけでも、いわゆる純愛とよばれる物語があるわけでもない。描かれているのは、日常の風景の中で、誰もが体験する普通の男女の恋愛である。例えば、大学のゼミで知り合った大学生達の始まりと終わり、6年間付き合っているカップルの分岐点、2年間の付き合いを終えようとしている2人の最後のデート…。

どの話も東京の街が舞台で、自然とその情景が目に見える。主人公がつぶやく台詞の端々に、自分が今まで恋愛中に思っていた気持ちと重なる部分が見つかる。そして、まるで自分が登場人物になったかのように引き込まれ、1つ1つの話に共感できる部分を見つけ、切ない気持ちにさせられてしまう。

それだけではない。登場人物達が、みな流されやすく、それでいてどこか純粋で、仕事も社会も少しわかってきたが、まだ不安定な部分があるという典型的20代であることも、共感できる要素と思われる。誰しも、こういうことある、こう

いうことがあったと感じる部分が、必ず1つは見つけることができるに違いない。

作者石田衣良の名前を有名にしたのは、ドラマにもなった『池袋ウエストゲートパーク』だと思うが、彼の實力は、恋愛小説においてこそ発揮されると強く思う。彼の有する鋭い観察眼と感性、そして人間全体への愛情が文章全体からあふれているからだ。この本に登場する人物達は、みな少なからず問題を抱えている人ばかりであるが、なぜか彼らに親近感を持ってしまう。1人として、否定的に描かれている人物はいない。だからだろうか、登場人物が幸せな結末を迎えると、読んでいる自分までも幸せな気分になれる。あたかも、自分の過去の恋愛をやり直すことができたかのように。

この本を読むなら、作者の言うように、ベッドに持ち込んで、眠る前に1粒か2粒ずつゆっくり服用するのがお奨めの処方である。そして、20代の恋愛をゆっくり味わった後は、30代男女の恋愛を中心とした短編集『1ポンドの悲しみ』も、じっくり服用していただきたい。

(会員 林 さやか)

スローグッドバイ 石田衣良



slow goodbye
Iwata Risa

集英社文庫

Cinema

心に残る映画

『ライフ・イズ・ビューティフル』

1998年／イタリア／ロベルト・ベニーニ監督作品

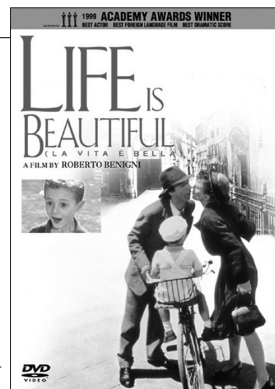
息子を守るためについた“嘘”は 父親の強さとやさしさに満ちあふれて

第2次世界大戦前夜の1939年、ユダヤ系イタリア人のガイドは、叔父を頼りに、友人と共にトスカーナのある町にやってきた。陽気でロマンチックな人柄のガイドは、小学校の教師ドーラに恋をし、彼女と結婚して息子ジョズエをもうける。親子3人の幸せな家庭を築いたものの、戦争の色は次第に濃くなって、北イタリアに駐留してきたナチスによって、3人は強制収容所に送られてしまう。母と引き離され不安がる息子ジョズエに対して、ガイドはジョズエを守るため「これはゲームなんだ」と嘘をつく。

この映画の魅力は、ガイドの陽気でユーモアにあふれ、知性的な人柄にある。

収容所生活で、幼い子どもが次々と殺されていってしまう中、ガイドは自分の息子を守るために息子ジョズエに隠れんぼをさせ、収容所の監視員から見つからないようにさせる。

『ライフ・イズ・ビューティフル』
発売中
価 格：¥2,500（税込）
発売元：アスミック
販売元：角川エンタテインメント
©MCMXCVII-Melampo Cinematografica s.r.l.-Roma



ジョズエが最近他の子どもがいなくなると落ち込んでいれば、収容所職員の子どもの隠れんぼをしているところをジョズエに見せ、皆隠れんぼで隠れているんだと言い聞かせる。

ガイドが、幼い息子ジョズエが収容所でも楽しく過ごせ、しかも殺されてしまわないように、精一杯アイデアを駆使する姿は、父親としての強さとやさしさに満ちあふれている。

最後には、息子を守るためガイドも収容所で殺されてしまうが、そのシーンでさえユーモアと息子に対する愛で満ちあふれており、重々しさを感じさせない。

悲劇的なストーリーであるにもかかわらず、ユーモアに満ちあふれた『ライフ・イズ・ビューティフル』は、お薦めである。

（会員 岩崎 文裕）